

両親への感謝を胸に、自立する女性を目指し生きて来ました。今、安心して好きなことができます。

神戸(ゆうゆうの里) 入江八重子様(85歳)

平成29年2月 一人入居

家族で疎開した兵庫県三田市でゼロからの出発

7人きょうだいの4番目として東京で生まれました。父は貴金屬の彫金師です。父が彫った指輪やネックレスの作品を母から譲り受け、今でも大切にしています。

私が幼稚園の頃に戦争が始まり、防空壕避難を何度も体験。6歳の時に東京大空襲があり、着のみ着の儘母の親戚を頼って兵庫県三田市に家族で疎開しました。三田は戦争とは無縁で穏やかな風景に癒されました。しかし、東京は更なる空襲で実家は全焼。家族はゼロからの出発となりました。母は産後の肥立ちが悪く目も不自由でしたが、7人を育てるために家事をこなし着る物も縫って家族を

支えました。全盲にも負けず、私たち7人を育てた母はすごい人でした。

ひとに頼らず自活できる人になろう

小さいころ苦労をしたので、自分は親兄弟に頼らずに自活している女性になろうと強く思いました。中学生の時から英語が好きで、高校生の時には英文タイプも打てるようになっていました。海事専門の弁護士事務所アルバイトをしながら、夜間は4年間英語学院で、速記や外資系の秘書としての技能を身につけました。その後スウェーデン商社に秘書として勤務。神戸市に建てた社屋の竣工式にスウェーデン国王がお越しになり、お会いしたこともありました。1970年の大阪万博では、ガイドライセンスの資格を取ったので、海外のVIPを案内する仕事も経験しました。やりがいある楽しい毎日でした。

きょうだい親元から離れて行った時には、私は両親と一緒に暮らすことにし、目の不自由な母に必要なサポートをしました。入退



院を繰り返す父は、私が病院に顔を出すのを楽しみにしていましたので、仕事帰りに毎日通いました。その父も81歳で亡くなり、母も長男と同居することになりました。人暮らしをすることになりました。ようやく自分の時間ができた私は、テニス、ゴルフ、旅行と好きなことをたくさん楽しみました。

いつかはホームに。「自分の暮らしている環境をそのままに」が実現

将来の見通しがつき、会社が早期退職を募っていたのを機に私は58歳で退職。それから友人と一緒に海外旅行を存分に楽しみ、「源氏物語を原文で読む講座」に16年通い全巻読了しました。また、退職時に「いつかはホームに入居しよう」と決めていましたので、友人に誘われて神戸(ゆうゆうの里)を見学したこともありました。その「いつか」を具体行動に変えたのは、見学から10年経った2015年、急な目眩による人生初の入院でした。これでは一人で生活を続けられないと感じ、い

くつかのホームを見学し本気で検討を開始しました。自分が暮らしている環境をそのままもって行けるような場所がいいかと考えました。昔からハイキングも好きでしたし、この緑豊かな環境はとても気に入りました。

グラウンドゴルフと詩吟のサークル。それに友人と行く旅行が楽しみ

ここでの暮らしには満足しています。毎週金曜日は大活躍です。午前はグラウンドゴルフサークル、午後はアスレチックジムで汗を流し、そのあとプールでクロールと背泳を楽しんでいます。グラウンドゴルフは、入居してからずっと続けています。気候の良いときは毎日しています。昔、施設内のグラウンドゴルフ大会があり、そこでいただいた表彰状は今も大切にしています。昔、父が老人会の会長をしていた時、自宅に詩吟の先生を囲み地域の方が集まる事がありました。聞いていてとても良いものだなと感じていたので、詩吟サークルにも入りました。先生はとても教え上手です。毎年考査があり、お免状も頂いています。

友人と行く旅行も楽しみ。ずっと続けたいです。



大切にしている彫金師のお父様の作品(指輪)



海外からのお客様を平安神宮にご案内する入江様